

止血帯の補足デモンストレーション

1. 三角巾と棒などを使う場合に三角巾一枚で長さが不足する場合

教本には紹介がないが、棒を固定するためにヒモ等を追加で使用して棒を結ぶことで固定する方法のデモンストレーションを行う。

実技練習時に、上記の状況になった受講生には、一旦個別でこの方法を説明し、全体にデモンストレーションを行う。

- ① 三角巾と棒などを使う場合の手順に従って、止血するまで棒で帯をねじる。
- ② 棒を固定するために巻いて縛る帯の長さが足りない想定を説明する。
- ③ 別のヒモ等を取り出し、止血帯よりも中枢側（抹消側は受傷部位であることからヒモを巻くのに適さないため）に出ている棒にヒモを巻き付け、ヒモを腕に回して縛って棒を固定する。
※棒を固定するために縛るヒモなので、必要以上にきつく締めて縛る必要はない。
- ④ 止血帯に使用した帯の末端は、止血帯がほどけないように縛っておく。（端末処理を行う。）

2. セカンドターニケット

1つ目の止血帯で完全に止血できなかった場合の2つ目の止血帯の使用について、受講生から質問があった場合はデモンストレーションを行う。

- ① 1つ目のターニケット若しくは三角巾と棒などを使用した止血帯を行う。
- ② 1つの止血帯で止血できなかった場合として、より中枢側に2つ目の止血帯を装着する。その際、ターニケットと三角巾と棒などを止血する場合のように、異なる手技を組み合わせて実施しても良い。